

おかちまち たいとう

台東区立御徒町台東中学校 学校だより 第6号

令和4年10月7日(金)

校長 福沢 俊之

TEL 03(3831)3787

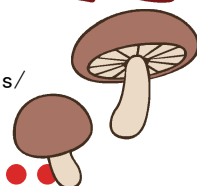
学校ホームページ

<http://www.taitocity.net/okachimachitaitou-jhs/>

↑更新中



10月



「学ぶ」ということ

校長 福沢俊之

中間テストも終わり、いよいよ文化祭の準備に入ります。今年度、3年ぶりに全ての宿泊行事を実施することができました。これだけ長くコロナ禍が続き、教育活動全般に与えた影響の大きさを考えると、これまでの意義ある教育活動に戻していくためには同じくらいの時間がかかるのではないかとも思っています。そのような中、文化祭では3年ぶりに合唱コンクールを行います。全学年が経験したことのない合唱コンクールですが、本番に至るまでの練習の過程で得られるものは必ずあると思っています。

先日、中間テスト前の朝礼で「学ぶこと」について思うところを話しました。

40年前になります。「さあ、来年から中学校の先生だ。」という期待に胸を膨らませていた私の頭に、ふと「先生、何で数学を勉強するの?」と生徒に聞かれたらどう答えようか、という課題がわいてきました。数学を教えることはできても、こうした素朴な疑問に答えられなかったらどうしよう…、という不安な気持ちもあり、帰宅途中の駅で電車を待ちながら考えていたことを思い出します。長い年月が過ぎた今、はっきりした答えが見つかったか、というと、そういうわけではありません。

今週、中間テストがあります。勉強に集中して取り組んでいる人は、ぜひ、そのまま頑張ってください。一方で、気持ちが乗らず、教科書や問題集を開けた途端、「こんなことを勉強して何になるの?」と思う人もいるかもしれません。でも、その答えはすぐには見つからないと思います。

先日読んだエッセイ*の筆者は、大学時代、進級を有利にするためだけに、たくさんの単位を取ろうといういろいろな授業を受けたその結果、どの授業を受けても知らないことばかりであることに気づき、そして、こう書いています。

「つまり、知らないことがあること自体を知らなかったわけだ。」

私たちは、「こんな勉強して何になるの?」と問うことがありますが、学ぶことの本当の意味は、結局、学んだ後でしかわからない、ということなのでしょう。（「答えになっていない」と思うかもしれませんね。）この筆者は、「自分の知らないことの領域が想像をはるかに超えて広がっていて、しかもそれを調べたり考えている人たちがいる。」ことに気づき「自分には教養が足りない」ことを思い知ったと言います。

ここで「教養」という言葉の意味を掘り下げることはしませんが、人間には生きていく上で教養が必要であり、それを身に付けていくこと、「学ぶこと」は大人になっても続けていかなければならないと思っています。

長い人生を考えれば、みなさんはまだスタートしたばかり、知らないことばかりではないでしょうか。テストもそのことに気付くよいチャンスです。自分の力を最大限発揮してこそ、100点からテストの得点を引いた点数の中身がとても貴重なものになるはず。今の自分が分かっていないことは何か、気付いてくれることを期待しています。

※ 雑誌「ちくま」2017年4月号

台東書道展入選者

(2-2) (2-4) (2-4)
(2-4) (3-1) (3-1)
(3-2) (3-2) (3-4) (3-4)

高円宮杯日本武道館 書写書道大展示覧会

硬筆の部 大会奨励賞 特選 (2-4)

ソフトテニス部

台東区秋季大会 男子団体戦 3位
個人戦 優勝 (2-2) (2-2)

台東区秋季大会 女子団体戦 2位

バレーボール部

台東区秋季新人大会 男子 3位 第五ブロック大会進出
台東区秋季新人大会 女子 3位 第五ブロック大会進出



台東区中学校連合陸上競技大会

9月27日(火)に第76回台東区連合陸上競技大会が行われました。天候にも恵まれ、最高のコンディションで臨むことができました。今回は、2020東京オリンピック・パラリンピックの会場として使用された新国立競技場で開催されました。

テレビで観たあの景色を目の前にした生徒たちは思わず「お～」と圧倒されていました。

トラック競技では緊張しながらも堂々とした走りを見せることができました。また、フィールド競技でも直前練習で調整をし、結果を残すことができました。試合途中では、台東区にゆかりのあるオリンピック選手のビデオメッセージやエキシビジョンマッチが紹介されました。

